

シーキングザダイヤ



2001年3月1日生 牡 鹿毛
父:Storm Cat
母:Seeking the Pearl(母の父:Seeking the Gold)
米・Jayeff "B" Stables生産
調教師:森秀行(栗東) 馬主:青山洋一氏

偉大なる シルバーコレクター



2006年のフェブラリーS。当時、ダート界に君臨していたカネヒキリの2着に入ったのがシーキングザダイヤだった。

前年の同レースでも快速馬メイショウボーラーに肉薄したものの惜敗。2年連続で悔しい敗戦を喫したことになるが、彼を語るうえで、これは序章にしか過ぎない。

デビュー2戦目からニュージーランドTまで4連勝。早くから注目される存在だった。そして3歳の12月、活躍の場を芝からダートへと変更、その後の歩みが際立っていた。

ただし、ダート戦での勝ち鞍は3勝と目立ったものではない。加えて、ダートGI競走に16度(JpnIを含む)出走しているが未勝利。だが、2着が9回という“結果”を残しているのだ。

偉大なるシルバーコレクター。

シーキングザダイヤほど、この言葉が似合う競走馬はいないだろう。

路線変更後、初めてのGI挑戦となったのが05年の川崎記念。2番手から3コーナーで先頭に。中国追走の前年のジャパンカップダート(現・チャンピオンズカップ)を勝ったタイムパラドックスも追い上げ、4コーナーからゴール手前まで両馬の競り合いは続いたが、クビ差で勲章を手にすることはできなかった。

その後、前述のフェブラリーS、マイルチャンピオンシップ南部杯でも2着。勝利の女神は彼に微笑むことはなかった。

中でも、この年のジャパンカップダートでの激闘は名勝負として語り継がれている。

ここまでダートGIで4戦2着3回と善戦していたが、ダート界の強者たちが集結したレースでは、まだ脇役に過ぎなかった。彼に与えられたファンの評価は16頭立ての11番人気。だが、強豪を相手に臆することはいなかった。直線、カネヒキリ、スターキングマンと激しい追い比べを演じ、帝王カネヒキリの前にハナ差及ばずの2着に。

この善戦によってファンも「GI馬の器」と認め、常に期待を集める存在となったが、以後、GIで11戦して5回の2着という“異色”な記録を残し、07年の東京大賞典を最後に現役生活に終止符を打った。

どうしても主役にはなれなかったシーキングザダイヤ。しかし、稀有なバイプレーヤーとして、当時、その名は光り輝いていた。

2004年★第22回ニュージーランドT(GII) 日本調教馬初の海外GI制覇を成し遂げた母・シーキングザパール譲りの末脚で、ふたつ目の重賞タイトルを獲得したシーキングザダイヤ(帽色・黒)。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
2003.12. 6	阪 神	2歳新馬	芝1400	5	1:23.5	武 豊
12.27	阪 神	2歳未勝利	芝1400	1	1:22.2	武 豊
2004. 1.31	東 京	クロッカスS	芝1400	1	1:22.2	武 豊
2.28	阪 神	アーリントンC(GIII)	芝1600	1	1:35.8	武 豊
4.10	中 山	ニュージーランドT(GII)	芝1600	1	1:33.5	武 豊
5. 9	東 京	NHKマイルカップ(GI)	芝1600	7	1:34.1	武 豊
7. 8	英	ジュライC(G1)	芝1200	12	—	武 豊
8. 8	仏	モーリスド・ゲスト賞(G1)	芝1300	15	—	武 豊
12. 7	宇都宮	とちぎマロニエC(GIII)	ダ1400	3	1:27.1	武 豊
12.28	園 田	兵庫ゴールドT(GIII)	ダ1400	1	1:27.3	武 豊
2005. 1.26	川 崎	川崎記念(GI)	ダ2100	2	2:14.2	横山典弘
2.20	東 京	フェブラリーS(GI)	ダ1600	2	1:34.9	O.ペリエ
3.21	高 知	黒船賞(GIII)	ダ1400	9	1:31.0	横山典弘
5.15	シンガポール	シンガポール航空国際C(G1)	芝2000	7	—	G.ボス
10.10	盛 岡	マイルチャンピオンシップ南部杯(GI)	ダ1600	2	1:36.9	横山典弘
11. 3	名古屋	JBCクラシック(GI)	ダ1900	6	2:01.7	横山典弘
11.26	東 京	ジャパンカップダート(GI)	ダ2100	2	2:08.0	横山典弘
12.29	大 井	東京大賞典(GI)	ダ2000	2	2:03.4	横山典弘
2006. 1.25	川 崎	川崎記念(GI)	ダ2100	2	2:12.9	O.ペリエ
2.19	東 京	フェブラリーS(GI)	ダ1600	2	1:35.4	O.ペリエ
9.20	船 橋	日本テレビ盃(GII)	ダ1800	1	1:51.6	武 豊
10. 9	盛 岡	マイルチャンピオンシップ南部杯(GI)	ダ1600	4	1:36.8	武 豊
11. 3	川 崎	JBCクラシック(GI)	ダ2100	2	2:16.3	武 豊
11.25	東 京	ジャパンカップダート(GI)	ダ2100	2	2:08.7	武 豊
12.29	大 井	東京大賞典(GI)	ダ2000	3	2:04.3	横山典弘
2007. 2.18	東 京	フェブラリーS(GI)	ダ1600	9	1:35.6	武 豊
6.27	大 井	帝王賞(JpnI)	ダ2000	5	2:05.1	武 豊
10.31	大 井	JBCクラシック(JpnI)	ダ2000	6	2:06.2	横山典弘
11.21	浦 和	彩の国浦和記念(JpnII)	ダ2000	1	2:09.7	武 豊
12.29	大 井	東京大賞典(JpnI)	ダ2000	6	2:05.1	横山典弘

※レース名は当時の表記による



2006年★第23回フェブラリーS(GI) 初のビッグタイトルを目指して力走したシーキングザダイヤ(帽色・黄)だったが、カネヒキリ(帽色・橙)の前に3馬身差の2着に敗退。